

篠原市政を振り返る

第2代 四国中央市長

篠原 実



退任のご挨拶

この度、4月27日の任期満了をもちまして市長の職を退任いたします。

平成25年4月に第2代四国中央市長に就任し、以来、3期12年にわたり「あったかなまちづくりと一体感の醸成」を理念とし、本市の舵取りを担わせていただきました。

就任1期目は、本庁舎の耐震化を新庁舎建設に方向転換し、また市民文化ホール（しこちゅくホール）の設計を変更するなど、大きな決断を余儀なくされたことが多くありました。

また2期目は、新庁舎やしこちゅくホールの建設など合併特例債を活用した大型事業も一段落し、更なる市民の一体感の醸成を目指し、市政運営に取り組みました。その中

で「愛媛国体」が、市民の皆さまと共に地域手づくりのおもてなしで、盛大に開催できましたことは大変思い出深いものでございました。

その一方で、「元号が「令和」に変わって間もなく、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルスが、本市にも大きな影を落としました。市民の皆さまの生命を守るため、感染予防やワクチン接種に取り組んだことも、決して忘れることはありません。

そして、迎えた3期目ですが、市長就任10年目に新型コロナウイルスの終息宣言がされ、市民の皆さまの暮らしも徐々に戻り始めた中で、今度は円安による物価高騰が本市の企業や市民の暮らし、更には市政運営をも圧迫し、現在もその影

響が重くのしかかっている状況でございます。しかし、このような厳しい社会情勢の中、企業や市民の皆さまが懸命に支え合い、歩みを進める中で、私も市政を預かる立場として、少しでもその力になれるよう努めてまいりました。



平成25年4月30日、小雨が降る中、市民や市議会議員、職員など約150人に迎えられ、篠原実市長が初登庁しました。就任のあいさつでは、必要な施策は力強く推進し、ひたむきに、謙虚に、あったかな四国中央市を目指して、より良いまちづくりを市民の皆さまと一緒に全力で取り組みたいと話しました。



2月25日に開会された令和7年第1回市議会定例会の代表質問で、自身の3期12年について振り返り、「ありがとうございました」という感謝の言葉で、答弁を締めくくりました。

あったか しこちゅく

篠原市政 12年間の歩み

2013.4-2025.4

災害に強いまちづくりと地域コミュニティの推進

大規模災害への備えとして、公共施設の免震・耐震化を政策の優先事項として取り組み、免震・耐火性能を備えた防災拠点「消防防災センター」（平成27年3月竣工）や災害時においても行政サービスが継続できる、免震構造の市庁舎（平成30年8月竣工）の整備のほか、県内でいち早くトイレトレーラーを導入（令和2年12月）しました。

また、地域コミュニティの拠点として「川之江ふれあい交流センター」（平成30年4月開館）や「北地区交流センター」（令

和7年7月開館予定）建設事業に取り組んだほか、文化・芸術活動の拠点として「市民文化ホール（しこちゅくホール）」（令和元年8月開館）や「歴史考古博物館（高原ミュージアム）」（令和2年7月開館）の整備を行いました。

福祉・子育て環境の充実

障がいの有無にかかわらず、幼児期から就労期までの一貫した支援を行う「子ども若者発達支援センター（パレット）」（平成29年4月開所）を整備するとともに、児童生徒の通学や保護者の送迎負担軽減を図るため「県立新居浜特別支援学校みしま分校」の開校（令和3年4月）に尽力するなど、「人にやさしいまちづくり」を目指し、共生社会の実現に向けて取り組みました。

また、平成27年度に、中学3年生まで

地球温暖化対策

の医療費無償化を実現し、令和5年度には対象年齢を18歳まで拡大したほか、令和4年度から小中学校の給食費と保育園の副食費を無償化するなど、子育て世代への経済的支援を行いました。そして、令和6年度からは、児童生徒の熱中症対策のため、小中学校体育館の空調設備設置に取り組みました。

新宮町出身でノーベル物理学賞を受賞した真鍋淑郎博士のご功績を広報紙やパネル展示などさまざまな形で市内外に伝え、シティプロモーションの推進とシビックプライドの醸成を図るとともに、博士が警鐘を鳴らす地球温暖化への対策に積極的に取り組みました。

次期可燃ごみ処理施設の整備については、ごみを燃やさず燃料化できる「トン

地域産業の振興

重要港湾三島川之江港の荷役能力向上のため、ガントリークレーンの設置（令和3年4月供用開始）に尽力しました。

また、地域住民から長年要望されていた「城山下臨海土地造成事業」（令和5年3月工事着工）を推進し、日本一の紙のまちが更なる飛躍を遂げるための基盤整備を進めるとともに、津波や高潮に対する防災・減災対策に努めました。

